[音声]姿勢を張って舞台の中央に立ちすぐに話し始めそうなタイミングで沈黙を保つ第一声は落ち着いたゆとりのある声滑舌、視線、言葉そのもの、誰とも被らないように、誰もが注目するようにあなたの目の前で起きている事象は私の意思と努力により成り立っていますスピーチが私の成り淮であり今回のテーマです話は10年前にさかのぼります私は北海道江別市の高校で弁論部に入部しました弁論とは日本語の7分間のスピーチ競技のことで論詞と表現により点数を競う個人競技です弁論部の練習には発声練習がありました体育館のベランダに出て、学校を囲む山や牧場に向けて「あいうえおいうえおわっ」と大きな声で叫びますすべての息を使い果たしてすがすがしい気持ちになったと思えば少し後ろの方からクスクスと笑い声が聞こえます当時の弁論部のレッテルはインキャラの集まり地味な人たちがやっている部活でした弁論部であることを言うと否定的な意見と共に馬鹿にされる生活が続きました発声練習もその一部で変な人たちが外に向かって規制を上げていると馬鹿にされていたんです私は初めて部室で先輩の弁論を聞いたとき人前で話すことがかっこいいと思っていたしかし周りはそう捉えていない悔しかった私は自分が弁論が強くなることで見返そうと決意しました人大会で20回以上の原稿の書き直しをし後輩からも容赦なく駄目出しをされ家に帰ってからも宿題そっちのけで弁論の練習をする日々そうして私は全国高等学校弁論大会で優勝し内閣総理大臣賞を受賞しましたそうすると学校の反応が「弁論はダサい」から「弁論はかっこいい」に返還されました部員は数倍に増え私のことを馬鹿にしていた人たちは「実は弁論部入りたかったんだよね」なんて言ってきました周囲の反応が変わり自分の決断に自信を持てたそして夢を持つことができ栄養入試でSFCに合格することもできました私にとって弁論は人生を変えてくれた存在ですそこから10年の月日が経ちました私の職業はスピーチライターですスピーチの構成や内容を作り話し方の指導を行うこの仕事は日本では片手で数える程度の人間しかやっていないと言われていますアメリカでは話す能力の大切さが浸透しておりスピーチライターの仕事もしっかり確立されています大統領には先続のスピーチライターが数名付いておりみだで役割分担をしながら演説言語を書いているんですこのスピーチライターという仕事は小説家の原田真羽さんの小説本日はお日柄もよくお読んでもらえるとよくわかると思いますこの仕事を始めようと思ったのは社会人2年目のIT企業に勤めている時でした始めようと思い検索してみても資格がなく始め方が分かりませんそこで実際にスピーチライターの人にSNSへ連絡し直接会いに行ってもある人からは育て方が分からないと弟子入りを断られたりある方からはアナウンサーになれなかった君には話を教える説得力なんてないよと言われたりしましたそうしてやっとの思いで初めてたどり着いた仕事がスピーチの教室を3ヶ月間持つことだったんです今までの成果をすべて出し切る本当に成長できる環境を作ろうと思い全力を出し切りましたそして3ヶ月が経ち最終発表会の日人前で話すことが嫌いだと緊張すると言っていた人たちが堂々と自分の意見を人前で話し人の心をつかむところを目の当たりにしました発表が終わって多くの人が良かったよとその人に言いに行く時その人の顔が自信と安堵に満ち溢れていたのを覚えていますこの時私はこの仕事は絶対に役に立つと確信しましたAI時代と謳われる今これからは論理や数値だけでは測れない新しい価値が求められていると思いますその中に私は人前で話すスピーチが入ってくると思うのです現在私はスピーチライターとして経営者、政治家、学校の先生、企業、塾なのでスピーチライティングやスピーチトレーニングをやっていますそこには確かな需要があります学ばなくてもなあなあにできる話し言葉だからこそ学ぶことによってこれからの時代を切り開いていくヒントになると思うのですここまで話してみて皆さん私のことをどう思いましたかすごい人だなあとか才能があるなあとか思ってもらえたら正直嬉しいですし本当はそう思われたいですでも本当のことを言うと私自身が全くそんな人間ではないことを一番知っています私はたまたま北海道に生まれましたたまたま娯楽の少ない地方で育ち高校受験に落ちて仕方なく入った高校に偶然弁論部があり勉強が苦手であわよくば部活の成績で大学に行きたいと思って弁論をやっていただけです競技人口だって私は優勝しましたが体育会や運動部他の文化部に比べたらこれぐらいですそう私は運が良かっただけなんですだから分かることがあります人前で話すことが好きな私と仮にこの会場にいるかもしれない人前で話すことが嫌いなAさんその二人の違いは才能でも能力でもなく人前で話すことについて真剣に考えたことがあるかそれだけなんですそして今皆さんはその真剣に考える機会をここで持っています私が言いたいことはとてもシンプルです潜入感を捨ててください日本人はスピーチが下手だ話す能力は才能によって決まっている自分は才能がないからいつまで立っても緊張してうまく話せない全て潜入感ですそれこそが自分の可能性を閉じ込めているということに気がついてください人前で話すことは能力ではなく学習することができるんですポイントはたくさんあります言葉の組み方、ストーリー、気象、点結、接続し、感情の使い方、活絶、発生、あげればきりがありませんそのポイントをつかむことができたら話がうまくなりますそれができたら自分で自信が持てて夢が開けて人を巻き込んで前に進むことができるだからその一歩としてここに潜入感を置いて帰ってくださいそして人前で話すことを学びたいと思ったときにそれが自由にできる環境を作るのがこれからの私の使命です私は先月全職を退職し、今月自分の会社を作りました新会社は株式会社「カエカ」と言いますカエカとは相濡で「糸を作る」という意味です糸は運命の糸や記憶の糸などの例えがあり、糸を紡ぐことで運命的なチャンスを得てほしいと思って作りましたこれからスピーチライディングだけではなく、スピーチトレーニングのプログラムや教室、テクノロジーを使った新しい挑戦をやっていきますもしちょっとでも興味を持ってもらえたら、この後話しかけてもらえたら嬉しいです人前で話す人がチャンスをつかめる社会に向けて、私は先進を切っていく覚悟ですご清聴ありがとうございました(拍手)ご視聴ありがとうございました! @小 lock